



創立140周年

記念式典

140th anniversary
Kofu First High School

令和2年 10月22日(木)

記念講演…雨宮 弥太郎氏

於：甲府第一高等学校

山梨県立甲府第一高等学校



ご挨拶

校長 小林 俊一郎

新型コロナウイルスの感染が世界的規模で広がりを見せ、その感染防止対策の影響からこれまでと異なる生活様式が求められる中、本日ここに多数のご来賓のご臨席を賜り、山梨県立甲府第一高等学校創立140周年記念式典を挙行できますこと、慶賀の至りに存じます。

本校の歴史に関して少し紐解いてみますと、明治13年の改正教育令を受けて、当時の山梨県師範学校に「山梨県中学校」が併設されたことを機に、この年を本校の創立年としています。その後、複数回の校名変更を経て、明治39年には山梨県立甲府中学校、さらに昭和23年の学制改革により山梨県立甲府第一高等学校と改称し、現在に至っています。

創立以来140年間、山梨県の中等教育の雄としての使命を担い、その役割を果たして参りました。政財界を始め、学術、芸術、スポーツ界など多方面にわたり、傑出した人材を数多く輩出してきたことは誰もが認めるどころです。本日の創立140周年記念式典を迎えるに当たっても、同窓会の皆様方、とりわけ記念事業協賛会の方々の偉大なお力や行動力を目の当たりにして、県下随一の伝統を誇る甲府一高の底力を再認識したところ です。

本日の記念式典は、当初はYCC山梨県民文化ホールを会場とする予定でございましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、会場を本校へと変更させていただきました。実は、その会場変更が可能となったのも、同窓会からの大きなお力添えがあったからなのです。映像を視聴する機器がなかった本校の各教室に、必要なICT機器(コンピュータ、プロジェクター、スクリーン等)を同窓会が寄贈してくださいました。そのおかげで、この記念式典を全校生徒が各教室で視聴できるようになったのです。これらの機器は、授業でも活用でき、まさに本校が今一番必要としている物でありました。学校としまして、感謝の念に堪えないところです。

さて、学校に目を向けますと、創立当時の理念や校是、伝統行事が脈々と受け継がれ、今なお色あせることなく、甲府一高で学ぶ若者達に伝えられ、息づいています。次代を担う本校生徒が有為で心豊かな人間に育つよう、教職員一丸となって努力して参ります。

本日の創立記念日が、同窓生の皆様方の絆をより強固なものにするきっかけとなることを祈念すると共に、本校生徒が諸先輩方のこれまでの功績に思いを馳せ、各自が抱く目標に向かって新たな出発を期する日となることを、心から願っております。

最後になりましたが、同窓生の皆様には本校のますますの発展のため、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。



ご挨拶

創立140周年記念事業協賛会 会長 金丸 信吾(昭和38年卒)

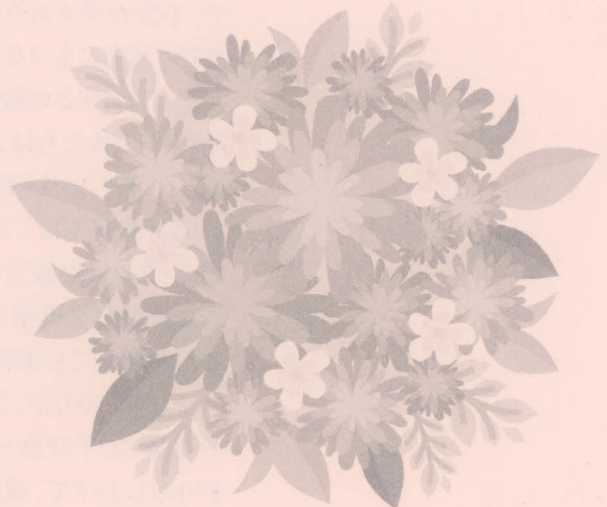
山梨県立甲府第一高等学校は、本日創立140周年の記念式典を迎えることになりました。この永い年月は、我々の先輩達が築き上げてきた輝かしい歴史と伝統の結果であり、甲府一高卒業生全員の誇りであり喜びであります。

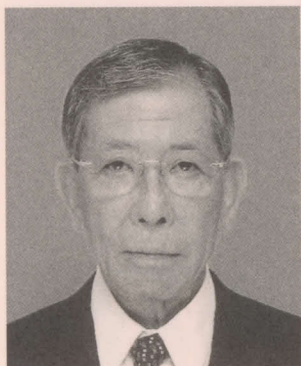
創立140周年の大きな節目にあたり、2年前から同窓会、PTA、学校の三者が中心となり「創立140周年記念事業協賛会」を組織し、母校の教育環境の充実と発展、そして「文化の香りのする懐の深い進学校」の実現の為の事業を実施することを決定し、全卒業生に対し協賛金の協力をお願いいたしました。目標金額は、4000万円でありましたが、最終的には目標をはるかに超える協賛金を達成することができました。これも偏に、先輩・後輩の同級生、保護者の皆様、そして歴代校長先生を始めとする教職員の皆様方の心温まる又力強い「母校愛」の賜物であり、協賛会を代表して、心から感謝とお礼を申し上げます。

この協賛事業に御協力いただいた全ての皆様の御厚志に報いる為、協賛金は事業計画に基づき、有効、適切かつ透明に活用させていただく予定であります。又、予想外の新型コロナウイルスの影響で、予定されていた事業に加え、コロナ対策のための機材の導入も追加し、緊急性を考慮し既に学校には納入済みであります。これらの事業内容、決算報告は来年度になりますが、御協力いただいた全ての皆様に140周年の記念誌と共に発送させていただき、御承認をいただく予定です。

未だ先の見えないコロナ禍、それに伴う極めて厳しい経済状況下ではありますが、皆様のなお一層の御活躍を心からお祈り申し上げます。

御協力、本当に有難うございました。





一高生の皆様へ

同窓会会長 宮島 雅展(昭和39年卒)

甲府第一高等学校が創立140周年を迎え、ここに記念式典が盛大に開催されますことを心より慶びお祝い申し上げます。

30年前の百十周年の記念式典で、当時の校長三澤弘毅先生が、「古人の跡を求めにらず、古人の志を求め。」という箴言を紹介していました。もとより「志」ということばは非常に沢山の意味があるのですが、在校生諸君の今は「目標を立てて、それを為しとげようと努力邁進すること。」という解釈で足りるかもしれません。しかしながら、将来社会人になったら、「志」には「相手から受けた厚意に報いる気持ちを表して事をおこなう。」という意味もあることに気づかねばなりません。現在、在校生はいろいろな恩に支えられて暮らしている筈です。世に、「恩送り」ということばもあります。お世話になった相手だけではなく「広く誰かに何かをしてあげられるような人」になって欲しいと心より願います。

甲府一高の長い歴史・伝統・一高魂はもともとそこに有ったものではありません。時代を生きた人々が創造し、大切に伝えて来たものだとは私思うのです。

在校生諸君の人生に対する気概に大きく期待しています。



祝辞

PTA会長 若月 栄治(平成元年卒)

甲府第一高等学校、創立140周年を迎えましたこと、心よりお祝い申し上げます。同窓生の皆様には、日頃PTA活動にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

2020年、私たちがかつて経験したことのない新型コロナウイルスとの戦いの年となりました。その状況下においても、心強いご支援を賜りました。頂いたプロジェクターやスクリーン、パソコンなどは、オンライン授業において早速活用させて頂き、学校生活に役立たせて頂いております。初めてのオンラインによる授業で、不安が多々ある中、このように支えられている環境に安堵し、前を向いて進んで行く活力にもつながっています。

まだコロナとの戦いは収束してはおりませんが、10年後、20年後に今を振り返った時に、「私たちは、戦いを乗り越えることが出来た!あの時は頑張った」と思えるよう、新しい生活様式に柔軟に対応していきたいと思っております。

強行遠足をはじめとする学校行事も多くが縮小、中止となり、生徒の皆さんはじめ、先生、保護者の皆様も悔しい思いをしました。それでも、その状況の中でできる最善策を模索し、実行してきました。この経験は、後に自分の人生において、どんな変化にも柔軟に対応できる力となると信じております。

そしてその力が、この甲府第一高等学校の未来を支えることと期待しております。

最後に、甲府第一高等学校の益々の発展と、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げて、祝辞とさせていただきます。

創立 140 周年 記念式典次第

1. 開式のことば

2. 国歌演奏

3. 校長式辞

4. 来賓祝辞

● 140周年記念事業協賛会会長

● 同窓会会長

● PTA会長

5. 来賓紹介・祝電披露

6. 生徒自治会会長挨拶

7. 事業報告

8. 感謝状ならびに記念品贈呈

● 歴代校長

9. 受賞者代表挨拶

10. 校歌演奏

11. 閉式のことば

歴代校長

第36代 跡部 和 殿

第37代 奥田 正直 殿

第38代 赤池 亨 殿

第39代 堀井 昭 殿

山梨県立甲府第一高等学校 校歌

上條 馨 作詞
小松 清 作曲

一 甲斐の国 み中に建ちて

古へゆ 雄心伝へ

新しき 世の鑑とし

勉めてむ この学舎に

二 日に新た また日に新た

いや高き のぞみをもちて

真なる 理究め

励みなむ 若人我等

三 聳え立つ 芙蓉の高根

清き哉 甲斐の山川

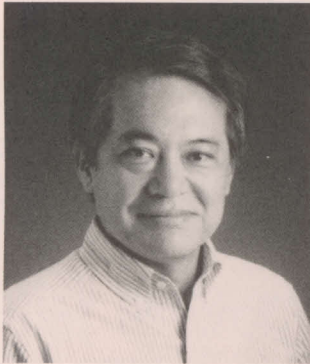
もろともに 玉と磨きて

賛くべし 天地の化育

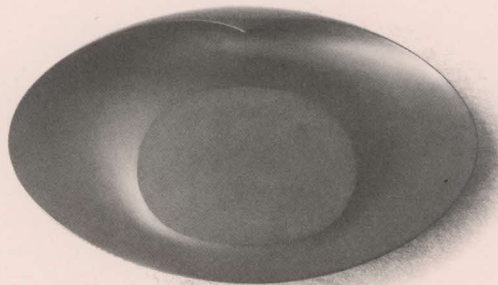
創立140周年 記念講演『創造すること、生きること』

講師…雨宮 弥太郎(あめみや やたろう)氏【創業330年雨端硯本舗】

講師プロフィール



- 1961年… 甲斐雨端硯本舗の13代目として山梨県に生まれる
- 1979年… 甲府第一高等学校卒業
- 1985年… 東京藝術大学彫刻科卒業
- 1989年… 東京藝術大学大学院修了(彫刻・美術教育)
- 1990年… 第37回日本伝統工芸展初出品初入選(以後継続出品)
- 2005年… 日本橋三越本店にて個展(8年、11年、14年以後3年おきに開催)
- 2006年… 第53回日本伝統工芸展にて新人賞受賞
- 2012年… 第52回東日本伝統工芸展にて日本工芸会賞受賞
- 2013年… Exhibition “Contemporary KOGEI Styles in Japan” 出品(米国フロリダ州森上博物館)
- 2014年… 日本伝統工芸展60回記念「工芸からKOGEIへ」展出品
- 2017年… 薬師寺「平成の至寶83選」展
- 2018年… 国民栄誉賞の記念品の硯箱内の硯を制作



潮洋硯

硯は墨を磨るという用途ばかりではなく、自分の内面と向き合う“精神の器”だと考えています。人の心を包み込み瞑想の時間をもたらす形を意識しています。

講師からのメッセージ

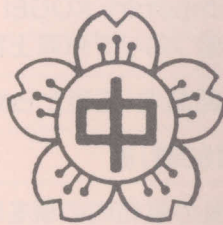
甲府一高140周年おめでとうございます。伝統の重みは力強い気概をもたらしてくれると思います。私も330年続く雨畑硯に携わり、伝統は大きな力となっております。

その上で、今までの私を導いてくれたのは“芸術への憧れ”だったのではないかと思います。一般に芸術は贅沢なものというイメージがあるかもしれませんが。しかし本来、生きていく上での根本にある感性なのだと思います。芸術はヒトの創造性に基づいています。そしてその創造性は全ての人の中にあるものです。様々な思い込みがその創造性の扉に気付きにくくしてしまっています。皆さんが自分の内にある創造性に気付き、羽ばたかせるきっかけとなる事ができたら幸いです。

【さつみ考堂】さつみ考堂

【熊本県立高等学校】

さつみ考堂



この設備による高等学校教育改革推進事業「グローバル型」
創成によるグローバルリーダーの育成

